

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価に関する報告書
(令和4年度事業実績)

令和5年8月
茨城町教育委員会

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要	
1	経緯	1
2	目的	1
3	対象	2
4	点検及び評価の方法	2
5	茨城町教育委員会評価委員会委員	3
6	評価委員会実施日	3
II	茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果（令和4年度事業）	4-5
III	教育に関する事務事業の点検・評価シート	
No.1	児童・生徒防犯対策事業	6
No.2	道徳教育推進事業	7
No.3	読書普及推進事業	8
No.4	語学指導事業	9
No.5	教育支援センター事業	10
No.6	学習指導支援講師配置事業	11
No.7	特別支援教育支援員配置事業	12
No.8	中学生自然体験教室事業	13
No.9	農業体験事業	14
No.10	放課後スクールサポート事業	15
No.11	スクールバス運行事業(小学校)	16
No.12	スクールバス運行事業(中学校)	17
No.13	小学生ヘルメット配布事業	18
No.14	中学生ヘルメット配布事業	19
No.15	青少年育成事業	20
No.16	放課後子ども教室推進事業	21
No.17	町民教養講座開設事業	22
No.18	長生大学運営事業	23
No.19	人づくり推進事業	24
No.20	図書館運営事務	25
No.21	読書推進活動事業	26
IV	教育委員会における今後の対応について	27

教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成20年4月1日施行）の施行により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。

本報告書は、同法26条の規定に基づき、令和4年度における茨城町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験を有する者の意見を付して報告するものである。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことにより、事業の成果や課題を検証し、効率的かつ効果的な教育行政の推進に資することを目的とする。

3 対象

茨城町第6次総合計画前期基本計画に基づき、令和4年度に実施した教育委員会の主要な21事業を対象とした。

4 点検及び評価の方法

- (1) 各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から検証した。
- (2) 各事業の成果と課題を検証し、今後の事業の方向性を確認した。
- (3) 学識経験者の知見を活用し、各事業を客観的に点検・評価した。

【原課評価：事業の執行者による自己評価】

各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から3段階で評価し、観点別評価の理由を付した。

○必要性 ・ ・ ・ ・ 「必要性が高い」、「一定の必要性がある」、「必要性が低い」

○有効性 ・ ・ ・ ・ 「効果がある」、「一定の効果がある」、「効果がない」

○効率性 ・ ・ ・ ・ 「効率的である」、「概ね効率的である」、「効率的でない」

【委員評価：評価委員による評価】

各事業の今後の方向性について、「現行どおり」、「拡大」、「縮小」、「休止」及び「廃止」の5段階で評価し、言及された課題や改善策等を評価委員意見として付した。

5 茨城町教育委員会評価委員会委員

委員長

高橋 燦吉 (元八戸工業大学学長)

副委員長

清水 正三 (元茨城町教育支援センター 生徒指導相談員)

委員

早乙女 恵美子 (元教育委員会職員)

6 評価委員会実施日

令和5年8月4日(金)

茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果(令和4年度事業)

事業数	分類	目的	VLT	事業資源元				事業対象範囲				原課評価			委員評価			
				国	県	町	参	幼児/幼稚園	小学校	中学校	生涯教育	必要性	有効性	効率性	評価	意見等		
1	生きる力の育成を重視した教育活動の推進・心の問題への対応・安全対策・通学対策の推進	通学時における児童・生徒の安全確保	○			○			No.1 児童・生徒 防犯対策事業				高	高	高	現	地域全体で見守る姿を外部にアピールしていくことは、とても重要なことである。見守っているという看板等があることで不審者の行動抑止効果となり、子どもを守ることにつながっており、今後も継続していただきたい。「110番の家」看板の設置協力者は、高齢者が多くなってきているため、新しく募るなど方法を検討する必要がある。	
2		規範意識や社会性の向上				○			No.2 道徳教育 推進事業				高	高	中	現	今の世の中が期待している授業の一つで、外部の方の講話などを聞くことはとても効果的である。心の教育はとても大切であり、もっと拡大してもよいくらいではないか。	
3		国語力の向上と心の教育の充実				○			No.3 読書普及 推進事業				高	高	高	現	最近、新聞の投書欄に子どもたちの意見が多くみられるようになり、社会問題についてよく考えていることを感じている。本を読んで考えることは大切な教育であるため、継続していただきたい。さらには、読んだ感想を書くことや一つの問題について考えて書くことを加えていただきたい。	
4		英語教育の強化と指導体制の充実				○			No.4 語学 指導事業				高	高	高	現	児童・生徒が直接外国人の英語指導を受けることは、これからの社会において大切なことであり、英語教諭の指導力の向上にもつながる。増員してもよいくらいだが、現在の人員は確保できるようにお願いしたい。	
5		不登校児童・生徒の学校及び社会復帰の支援				○			No.5 教育支援 センター事業				高	高	高	現	コロナ禍という影響もあり、不登校者数が増えている。家庭環境などの問題もあると思われるが、家庭教育と緊密に連携していくことは大切であり、学校との連携も必要である。学校に復帰できるよう、ケアと支援を引き続きお願いしたい。	
6		個に応じたきめ細やかな学習支援				○			No.6 学習指導支援講師配置事業				高	高	高	現	きめ細やかな指導ができる体制があることは評価できる。大切な事業であり、今後も継続していただきたい。	
7		障害のある児童・生徒の学習支援				○			No.7 特別支援教育支援員配置事業				高	高	高	現	とても大切で、重要な事業であり、町の対策は十分評価できる。本来なら町だけの一般財源で賄うのではなく、国等が補助しながら取り組んでいくべき事業。今後も継続していただきたい。	
8		自然体験と集団生活を通じた人間育成				○	○		No.8 中学生自然体験教室事業				高	高	中	現	生徒たちが大変楽しみにしている事業。教職員の負担は多くなるが、なかなか経験することができない貴重な体験なので、今後も継続していただきたい。	
9		体験学習を通じた人間育成				○			No.9 農業 体験事業				高	高	高	現	町の基盤産業である農業を地域の方の協力を得ながら実施できるのは素晴らしく、費用に対する効果はとても大きいと思われる。今後も継続していただきたい。	
10		放課後学習活動等の支援				○			No.10 放課後スクールサポート事業				高	高	中	現	短時間勤務であるため、サポーターの確保が大きな課題ではあるが、茨城町の学校には必要不可欠であり、低学年対応は必須であることから、今後も継続していただきたい。	
11		通学における利便性・安全性の向上				○	○		No.11 スクールバス運行事業(小学校)	No.12 スクールバス運行事業(中学校)				高	高	高	現	学校の統廃合における基本の事業であることから、今後も継続していただきたい。
13		通学における安全性の向上				○			No.13 小学生ヘルメット配布事業	No.14 中学生ヘルメット配布事業				高	高	高	現	令和5年4月より、自転車に乗る際のヘルメット着用が「努力義務」になったことにより、この事業の意義は大きい。また、児童生徒の安全を守るため、今後も継続していただきたい。
15		家庭・企業・地域・活動・開域等への教育機能の向上・特色ある青少年講座・教室の推進	体験学習を通じた人間育成	○			○	○		No.15 青少年 育成事業				高	高	高	現	コロナ禍での事業の推進は大変であり、苦労や工夫しながらの実施は評価できる。今後も継続していただきたい。
16			次代を担う人材の育成	○		○	○	○		No.16 放課後子ども教室推進事業				高	高	中	現	児童数が減少する中、参加者が増えているということは、活動内容の工夫があると思われる。このように立派な成果が上がっている事業なので、今後も継続していただきたい。
17	生涯学習と社会参加の促進		○			○	○			No.17 町民教養講座開設事業				高	高	中	現	町民参加は公民館活動の要となっているもの。社会情勢の変化の中、講座開設には苦労があると思うが、町民参加の場を提供していくことは重要な事であるため、今後も継続していただきたい。
18	高齢者の生涯学習の促進					○	○			No.18 長生大学 運営事業				高	高	高	現	高齢者の認知症予防には、社会とつながることが必要なことである。企画・運営に工夫が見られたことが、受講生数につながっていると思う。今後も継続していただきたい。
19	文化・芸術を通じた人間育成					○			No.19 人づくり推進事業				高	高	高	現	予算上の問題もあり、講師の依頼には苦労はあると思うが、著名人の講演を聞く機会を持つことは、有意義な時間であるので、今後も継続していただきたい。	
20	生涯学習・生涯学習施設整備・生涯学習施設充実促進	地域における情報拠点としての図書館運営				○			No.20 図書館 運営事務				高	中	高	現	コロナ禍の課題が多い中でも、町民に図書館に来てもらおうとする努力が見られ、とても良いことだと思う。今後も継続していただきたい。	
21	生涯学習・生涯学習施設整備・生涯学習施設充実促進	絵本を通じたコミュニケーションの促進	○			○		No.21 読書推進活動事業				高	高	高	現	図書館員は、図書の貸し出し業務だけではなく、図書室や各事業への派遣はとても有意義な事業といえる。本に触れあうことで、人を思いやる心を育むことにつながる大切な事業なので、今後も継続していただきたい。		

VLT: ボランティア協力者の有無 参: 参加者負担金の有無 原課評価は、「高」、「中」、「低」の3段階評価

委員評価は、「現: 現行どおり」、「拡: 拡大」、「縮: 縮小」、「休: 休止」、「廃: 廃止」の5段階評価

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.1

令和4年度

事業名	児童・生徒防犯対策事業						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	13	児童・生徒防犯対策事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円		
	一般財源		136 千円			136 千円		130 千円		
4 事業の目的	対象	PTA会員、「110番の家」看板の設置協力者								
	目的	PTAやボランティアの協力を得ながら、登下校時の児童・生徒の安全対策を図る。								
5 事業の概要	<p>【保険】 立哨、引率等、防犯活動に対する保険のため、茨城県PTA安全互助会の加入者負担金を支出。 【「110番の家」看板】 協力者宅に配布する看板を作製。(看板の残枚数の状況に応じて作製)</p>									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	「110番の家」看板設置軒数					779軒	774軒	772軒		
	小中学校からの不審者情報に関する報告件数					4件	6件	3件		
	小中学校における通学安全対策に係る組織の設置数					6校/6校	6校/6校	6校/6校		
	青色パトロール車による巡視					下校時間における毎週木曜日以外に実施				
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		登下校時の児童・生徒の安全対策には地域との連携が必要であり、昨今の社会情勢を鑑みてもその必要性は高い。							
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか		報告された不審者情報件数は、ここ数年大きな変動はないが、今後とも登下校時の安全を確保する活動は継続していくべきものと考えられる。							
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
経費や手段は適切であるか		青色パトロール車による巡視は、町教育委員会と町長公室の連携により、日々実施している。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり		地域全体で見守る姿を外部にアピールしていくことは、とても重要なことである。見守っているという看板等があることで不審者の行動抑止効果となり、子どもを守ることに繋がっており、今後も継続していただきたい。「110番の家」看板の設置協力者は、高齢者が多くなってきているため、新しく募るなど方法を検討する必要がある。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.2
令和4年度

事業名	道徳教育推進事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	17	道徳教育推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		120 千円			120 千円		105 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒・教職員							
	目的	生命尊重の心や自尊感情を育み、規範意識や社会性の向上を図る。							
5 事業の概要	【道徳講演】 命の大切さ、いじめ防止、情報モラル(携帯・パソコンの使用について)、障がい者、LGBTへの理解、道徳指導についてをテーマに各小中学校で講演会を行う。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度
	道徳講演会実施校数						6校	6校	6校
	実演(演奏等)を含む道徳講演会実施校数						6校	6校	6校
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		充実した道徳教育の時間を確保することは、児童・生徒の道徳性を養い、豊かな心を育成するために必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		道徳教育講演会においては、各学校が講師を招き、子供たちが社会規範や情報モラルを学ぶ機会として積極的に執り行っている。児童・生徒からも積極的な意見交換がされ、豊かな心の育成を進めることが出来た。						
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		各校において、児童・生徒の教育状況や現代的な課題に即した道徳教育を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止
	● 現行どおり								
	今の世の中が期待している授業の一つで、外部の方の講話などを聞くことはとても効果的である。心の教育はとても大切であり、もっと拡大してもよいくらいではないか。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.3

令和4年度

事業名	読書普及推進事業						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進								
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	18	読書普及推進事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円		
	一般財源		228 千円			236 千円		232 千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒								
	目的	読書活動の推進を通して、児童・生徒の国語力の向上と心の教育の充実を図る。								
5 事業の概要	児童・生徒の読書活動を推進するため、読書記録(書名、作者名、感想等)を記載させる用紙及び用紙の保管用のバインダーを配付し、年間を通じて目標冊数を達成した児童・生徒に対して、賞状を授与する。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	小学校1～6年生が1年間で100冊以上の本を読んだ児童数					514	457	420		
	中学校1～3年生が1年間で50冊以上の本を読んだ生徒数					75	61	111		
	読書は好きですか(全国学習状況調査の結果) 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合					/		/		
学校の授業時間以外に、普段(月曜から金曜)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(全国学習状況調査の結果)「30分以上」と回答した児童・生徒の割合					小: 31.7% 中: 28.6%	小: 28.8% 中: 31.3%	小: 36.7% 中: 31.5%			
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童・生徒の国語力の向上及び心の教育の充実のため、読書の有効性が注目されており、読書活動を推進するために本事業が必要である。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業を中心とした読書活動の推進により、多くの児童・生徒が年間の読書冊数の目標を達成し、これに伴い児童・生徒の読解力が向上してきている。読書離れが問題視される中、具体的な数値目標を設定することで本を読むきっかけとして本事業を活用し、読書習慣がさらに多くの児童・生徒に定着するよう努める。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	町の年間の読書冊数の目標を設定し、小学生が100冊以上、中学校は50冊以上の達成者に対して賞状を授与した。また、小学生に対して読書の記録をさせる用紙を配付し、新入生に対しては保管用のバインダーも配付した。今後もより事業効果が上がるように努める。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	最近、新聞の投書欄に子どもたちの意見が多くみられるようになり、社会問題についてよく考えていると感じている。本を読んで考えることは大切な教育であるため、継続していただきたい。さらには、読んだ感想を書くことや一つの問題について考えて書くことを加えていただきたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.4

令和4年度

事業名	語学指導事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策		②生きる力の育成を重視した教育活動の推進								
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	12	語学指導経費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		25,570 千円			25,846 千円		26,109 千円			
4 事業の目的	対象	児童・生徒									
	目的	児童・生徒の英語学力の向上と、将来、国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。									
5 事業の概要	外国人の英語指導助手(ALT)を小・中学校に各1名を配置し、児童・生徒の英語力の向上及び英語教育の充実を図る。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	英語力の向上(県学力診断テスト1年生の平均点)						85.3点※	58.4点	70.5点		
	県学力診断テスト1年生県平均点との差						+0.8点※	-1.1点	-1.0点		
	ALT配置状況						6名	6名	6名		
	※令和2年度は県学力診断テストが実施無のため、 県学力定着度調査の平均点を参考値として掲載。										
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		国際社会の進展の中で、英語力の向上は将来の社会生活において必要である。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		ALTの配置により、日常的に英語に触れる機会や外国の文化について学ぶ機会がつくられている。また、授業においてもネイティブ・スピーカーが加わることでより質の高い授業が展開されている。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		英語の授業時間数が増え、ALTの必要性が高まる中、全校に1人ずつの配置により、ALTを活用できる時間が増え、授業の打合せ時間も確保できるようになった。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	児童・生徒が直接外国人の英語指導を受けることは、これからの社会において大切なことであり、英語教諭の指導力の向上にもつながる。増員してもよいくらいだが、現在の人員は確保できるようにお願いしたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.5

令和4年度

事業名	教育支援センター事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	③心の問題への対応							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	13	教育支援センター経費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		6,822 千円			7,022 千円		6,945 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒及び教職員							
	目的	不登校、暴力行為、いじめ等の未然防止及び早期対応と、不登校に陥った児童・生徒の社会復帰支援を行う。また、児童・生徒の指導に関する教職員からの相談に応じ、教職員の指導力向上を図る。							
5 事業の概要	【勤務時間】	年間を通じて、実情に応じた勤務(7時間以内/日、3日以内/週)							
	【勤務内容】	不登校をはじめとした生徒指導上の問題を抱える児童・生徒に対する指導や相談業務、各校教職員の生徒指導力の向上を図るための研修							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度
	不登校児童生徒数(30日以上・病欠を除く)						42人	61人	88人
	児童100人あたりの不登校の出現者数						1.01人	1.55人	3.17人
	生徒100人あたりの不登校の出現者数						3.58人	5.05人	5.99人
	教育支援センターへの相談件数						824件	713件	782件
	相談員の配置状況						7名	7名	7名
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	不登校児童生徒数、100人あたりの不登校出現者数、相談件数は増加傾向の状況にあり、相談内容も複雑化している。児童・生徒だけでなく、保護者や学校にとっても教育支援センターの役割の必要性は高い。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	不登校児童生徒数が増加傾向の状況にある中で、様々な理由により学校に行くことができない児童・生徒にとって、学校に行くきっかけをつくる場となっている。							
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	不登校児童生徒数が増加傾向の状況にあるため、経験豊富な教職経験者や専門職を起用することにより、問題に効率的・効果的に対処している。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	コロナ禍という影響もあり、不登校者数が増えている。家庭環境などの問題もあると思われるが、家庭教育と緊密に連携していくことは大切であり、学校との連携も必要である。学校に復帰できるよう、ケアと支援を引き続きお願いしたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.6

令和4年度

事業名	学習指導支援講師配置事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	16	学習指導支援講師配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		15,938 千円			14,450 千円		13,851 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	学習指導支援講師を配置することにより、少人数指導やチームティーチング等のきめ細かな指導を実施する。							
5 事業の概要	<p>【勤務時間】 年間1,050時間以内(6時間以内/日、30時間以内/週、5日以内/週)</p> <p>【勤務内容】 学級担任とのチームティーチング指導 少人数の学習集団を形成し、個に応じたきめ細やかな指導を実施。</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	学習指導支援講師数(配置校数)					7人(6校)	6人(6校)	6人(6校)	
	全国学力・学習状況調査 対象:小学校第6学年児童 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合	国語の勉強は好きですか				79.0%	59.8%	67.1%	
		国語の授業はわかりますか				82.7%	85.6%	91.5%	
		算数の勉強は好きですか				71.4%	67.7%	62.0%	
算数の授業はわかりますか				77.9%	83.4%	83.8%			
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		各学校の状況に応じて、非常勤講師を配置することで、少人数単位で柔軟に対応することができ、指導が行き届くようになるため必要性は高い。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		国語と算数の授業がわかると答えた児童の割合が増加傾向にある。勉強が好きと答えた児童の割合の増加に向けても、少人数での学習によるきめ細やかな指導に、より力を入れていく必要がある。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		各学校の実情に応じ、より高い事業効果を上げるべく、県による加配とのバランスを考慮しながら、効果的に活用できるよう対応していく必要がある。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	きめ細やかな指導ができる体制があることは評価できる。大切な事業であり、今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.7

令和4年度

事業名	特別支援教育支援員配置事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	17	特別支援教育支援員配置事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		19,732 千円			21,466 千円		23,232 千円			
4 事業の目的	対象	肢体不自由や発達障害等により、個別に支援を要する児童・生徒									
	目的	通常学級及び特別支援学級に在籍する、肢体不自由や発達障害等により、個別に支援を要する児童・生徒に対して、校内における日常生活の介助や危険な行動の防止等安全面に配慮した支援を行う。									
5 事業の概要	【勤務時間】 小学校：年間900時間以内(6時間以内/日、28時間以内/週、5日以内/週)										
	【勤務内容】 日常生活の介助、教室間移動の介助、健康・安全確保、教材作成等										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	特別支援教育支援員数						18人	20人	22人		
	特別支援教育支援員配置校数						5校	4校	4校		
	支援を要する児童数/児童数(全体)						43人/1,382人	48人/1,347人	47人/1,322人		
	支援を要する生徒数/生徒数(全体)						7人/782人	2人/791人	7人/767人		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	支援を要する児童・生徒が年々増加する中、適切な教育を実施し、円滑な学級・学校運営を行うためには、各学校の実情を把握したうえで現状に見合った数の支援員を配置することは必要である。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	支援を要する児童・生徒一人一人の状況に応じて丁寧に対応できるため、クラス全体の落ち着きや安全の確保につながっている。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	専門的な知識を有する委員による協議会を開催し、児童・生徒の情報共有や支援体制を決定している。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	とても大切で、重要な事業であり、町の対策は十分評価できる。本来なら町だけの一般財源で賄うのではなく、国等が補助しながら取り組んでいくべき事業。今後も継続していただきたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.8

令和4年度

事業名	中学生自然体験教室事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	28	中学生自然体験教室事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			5,880 千円		5,260 千円			
	一般財源		0 千円			151 千円		225 千円			
4 事業の目的	対象	生徒(中学2年生)									
	目的	自然の中で集団生活を行うことにより、学校の中では経験できない様々な体験を通じて、生徒の成長を促す。									
5 事業の概要	町内2校の中学2年生が合同で、4泊5日の日程で北海道の雄大な自然環境と文化を実体験する。令和4年度については、新型コロナウイルス感染症を考慮し、山梨県 富士山・河口湖方面2泊3日を実施。 (町助成金 参加者一人あたり2万円)										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	明光中参加生徒数(令和4年度参加者)						145名	175名	141名		
	青葉中参加生徒数(令和4年度参加者)						92名	100名	104名		
	計						237名	275名	245名		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		自然の素晴らしさを体感することや生徒同士の交流を深めることができ、生徒の成長に必要である。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		自然や文化に触れることによる新たな気付きや集団生活による協調性及び自律性を育てることができた。								
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		町負担金により保護者の負担軽減を図ることができた。学校や生徒が主体となって行程を検討できた。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止					
	● 現行どおり										
	生徒たちが大変楽しみにしている事業。教職員の負担は多くなるが、なかなか経験することができない貴重な体験なので、今後も継続していただきたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.9
令和4年度

事業名	農業体験事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	29	農業体験事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		82 千円			115 千円		114 千円			
4 事業の目的	対象	児童・生徒									
	目的	本町の基幹産業の一つである農業を地域の方の協力を得ながら体験することで、自然の豊かさを学習する。									
5 事業の概要	<p>【小学校】 農家の方々からの指導・助言をもらいながら各校の計画により稲や野菜の栽培及び収穫を行う。</p> <p>【中学校】 中学校近くの遊休農地において、年間を通して農作物を栽培し、収穫後の農作物の活用方法等も決める。</p>										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	実施内容		<p>小学校 野菜、花の栽培(トウモロコシ、ヒマワリ、アサガオ、ホウセンカ、マリーゴールド、ツルレイシ、サツマイモ、オクラ、ピーマン、ゴーヤ、ジャガイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習など</p> <p>中学校 ブロッコリー、白菜、大根、サツマイモの収穫、調理実習など</p>			<p>小学校 野菜、花の栽培(トウモロコシ、ヒマワリ、アサガオ、ホウセンカ、マリーゴールド、ツルレイシ、サツマイモ、オクラ、ピーマン、ナス、ジャガイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習など</p> <p>中学校 ブロッコリー、白菜、大根、サツマイモの収穫、調理実習など</p>		<p>小学校 野菜、花の栽培(アサガオ、ホウセンカ、ピーマン、ナス、トマト、(トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習</p> <p>中学校 サツマイモの収穫、販売、調理実習など</p>			
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		茨城町の基幹産業である農業に対する興味・関心を高めるとともに、農業の重要性や勤労の尊さを学ぶ機会を与えるため、事業の必要性は高い。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		活動を通して、自然の豊かさを学び生産者の苦勞を知り感謝の気持ちを持つことができるようになった。また、仲間と協力して活動を行うことの大切さを学ぶことができた。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		体験学習にかかる材料費、協力していただいた農家に対する謝金等を町予算から執行している。また、JA水戸の協力を得て、職員を講師として派遣してもらっている学校もある。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大			○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり										
	町の基盤産業である農業を地域の方の協力を得ながら実施できるのは素晴らしく、費用に対しての効果はとても大きいと思われる。今後も継続していただきたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.10
令和4年度

事業名	放課後スクールサポート事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	31	放課後スクールサポート事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		1,183 千円			819 千円		724 千円	
4 事業の目的	対象	児童(青葉小学校・葵小学校 低学年)							
	目的	スクールバスを運行する青葉小学校と葵小学校に配置し、高学年と下校時刻にずれが生じる低学年に対し、待ち時間に学習等活動等の支援を行う。							
5 事業の概要	【勤務時間】 1日2時間以内 青葉小学校、葵小学校の授業日における実情に応じた勤務 【勤務内容】 児童の学習の見守り、読書活動								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度
	放課後スクールサポーターの配置状況						16名	12名	11名
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合によるスクールバスの導入に伴う児童の下校時間のずれを解消することを目的とした事業である。放課後のクラブ活動や委員会等に出してしまう教職員をサポートするために必要性は高い事業である。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	高学年の下校を待つ時間を有効に活用することで、低学年の学習習慣の定着につながっている。また、教職員は委員会活動等に従事することができている。							
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> おおむね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	クラスごとに配置しており、人員が必要とされる一方で、短時間勤務のため、サポーターの収入が少なく、人員確保が課題となっている。放課後児童クラブ等、他の職種で学校に勤務している方に積極的に声掛けをしていく必要がある。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり								
	短時間勤務であるため、サポーターの確保が大きな課題ではあるが、茨城町の学校には必要不可欠であり、低学年対応は必須であることから、今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.11
令和4年度

事業名	スクールバス運行事業(小学校)						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	2	目	1	事業	14	小学校スクールバス運行事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度		
	国・県・支出金		10,846 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		11,529 千円			10,802 千円		11,688 千円		
	一般財源		71,639 千円			77,340 千円		76,454 千円		
4 事業の目的	対象	青葉小学校・葵小学校に在籍し、おおむね3km以上の地区から通学する児童(希望制)								
	目的	学校統合により、遠距離通学となる児童の通学の安全及び負担の軽減を図る。								
5 事業の概要	<p>【運行車両】大型バス5台、中型バス10台、小型バス3台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時1回、下校時1回の計2回</p> <p>【停留所数】青葉小学校:48ヶ所、葵小学校:21ヶ所</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円</p> <p>【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	スクールバス利用者数						513名	475名	451名	
	スクールバス年間運行日数						200日	201日	199日	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	スクールバスを導入して9年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげている。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	運行内容や方法を精査するとともに、財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	学校の統廃合における基本の事業であることから、今後も継続していただきたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.12
令和4年度

事業名	スクールバス運行事業(中学校)						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	14	中学校スクールバス運行事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度			令和4年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円			0 千円	
	その他財源		777 千円			913 千円			874 千円	
	一般財源		7,108 千円			5,669 千円			6,319 千円	
4 事業の目的	対象	青葉中学校に在籍し、昭和区及び網掛区等、遠距離から通学する生徒(希望制)								
	目的	学校統合により、遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る。								
5 事業の概要	<p>【運行車両】中型バス1台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時2回、下校時2回の計4回</p> <p>【停留所数】4ヶ所(宮ヶ崎第六公民館・香取学習館・網掛学習塾前・網掛ゴミ収集所)</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円</p> <p>【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	スクールバス利用者数						29名	34名	32名	
	スクールバス年間運行日数						200日	200日	200日	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになり、大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげている。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	運行内容や方法を精査するとともに、財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止								
	● 現行どおり									
	学校の統廃合における基本の事業であることから、今後も継続していただきたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.13

令和4年度

事業名	小学生ヘルメット配布事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進									
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	14	通学援助費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		951 千円			874 千円		882 千円			
4 事業の目的	対象	児童									
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。 また、家庭において自転車に乗る際の着用を推進する。									
5 事業の概要	新入学児童(215名)及び4年生(230名)にヘルメットを無償で配布する。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	ヘルメットの無償提供数						438名	441名	445名		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		登下校時や家庭における安全対策が必要である。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		登下校中の児童を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		新入学児童の増減により経費は変動する。また、転入の対応として追加購入することもあるため、児童数の推移を注視しながら対応している。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	令和5年4月より、自転車に乗る際のヘルメット着用が「努力義務」になったことにより、この事業の意義は大きい。また、児童生徒の安全を守るため、今後も継続していただきたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.14

令和4年度

事業名	中学生ヘルメット配布事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進									
2 予算の体系	款	10	項	3	目	2	事業	14	通学援助費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		816 千円			1,383 千円		711 千円			
4 事業の目的	対象	生徒									
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。 また、家庭において自転車に乗る際の着用を推進する。									
5 事業の概要	令和4年度の新入学生徒に対し、ヘルメットを無償で配布する。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	ヘルメットの無償提供(購入補助)数						272名	228名			
	ヘルメットの無償提供数							233名	237名		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		自転車通学時や家庭での自転車利用時の安全対策に必要である。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		登下校中の生徒を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		新入学生徒の増減により経費は変動する。無償配布により入学時の保護者の負担を軽減することとなっている。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大			○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり										
	令和5年4月より、自転車に乗る際のヘルメット着用が「努力義務」になったことにより、この事業の意義は大きい。また、児童生徒の安全を守るため、今後も継続していただきたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.15

令和4年度

事業名	青少年育成事業						担当課	生涯学習課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成			
	基本施策	④青少年の体験・交流活動等への参画促進								
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	12	青少年育成事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度			令和4年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円			0 千円	
	その他財源		101 千円			0 千円			76 千円	
	一般財源		28 千円			13 千円			47 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒								
	目的	様々な体験活動や学習機会を提供し、子どもたちの人間性・創造性を育むことを目的とする。								
5 事業の概要	①里山自然体験 (1回:21人) ②将棋教室 (4回:8人) ③液体窒素で-196℃の世界を体験 (1回:11人) ④海のマグネットづくり (1回:18人) ⑤夏のパステル和(NAGOMI)アート (1回:9人) ⑥不思議な光の万華鏡 (1回:13人)					⑦どんぐり工作 (1回:52人) ⑧クリスマスリースづくり(親子) (1回:14人) ⑨石炭を学んで恐竜トリックアートづくり (1回:5人) ⑩エコ和紙ランタンづくり (1回:10人) ⑪バルーンアート教室 (1回:6人)				
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	自然体験事業参加人数						38 人	0 人	21 人	
	子ども教室参加人数						75 人	0 人	146 人	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	日常では経験できない様々な体験、交流活動を通して、創造性、協調性を育む機会を提供している。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	異年齢の子どもたちと、町の自然を生かした体験や多様な学習を行うことで、自主性、協調性及び社会性の習得に結びついている。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	里山体験では、常陽森のボランティアに委託したことにより充実した内容と職員の負担軽減になった。 募集のチラシは小、中学校を通して配布し、窓口、FAX、インターネットを利用して申し込みの受付を行っている。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止								
	● 現行どおり									
	コロナ禍での事業の推進は大変であり、苦労や工夫しながらの実施は評価できる。今後も継続していただきたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.16

令和4年度

事業名	放課後子ども教室推進事業						担当課	生涯学習課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成				
	基本施策	③ 家庭・地域の教育機能の向上									
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	13	放課後子ども教室推進事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		1,457 千円			1,306 千円		872 千円			
	その他財源		194 千円			301 千円		737 千円			
	一般財源		3,185 千円			4,645 千円		3,176 千円			
4 事業の目的	対象	児童									
	目的	小学校の施設を利用して、児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行う機会を設ける。									
5 事業の概要	町内全4小学校において、週1回実施。 長岡小学校、大戸小学校、葵小学校は定員60名、青葉小学校は定員70名。 放課後の時間を利用して、自主学習、スポーツ体験活動等を行っている。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	実施校数						4 校	4 校	4 校		
	参加者数						134 人	188 人	218 人		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		子供たちの安全・安心な活動拠点として、様々な学習、スポーツ体験活動等を提供している。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		異年齢との活動や様々な体験により豊かな人間性を育む場となっている。								
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		アンケート調査を実施し、実施内容の検討・充実を図っている。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	児童数が減少する中、参加者が増えているということは、活動内容の工夫があると思われる。このように立派な成果が上がっている事業なので、今後も継続していただきたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.17

令和4年度

事業名	町民教養講座開設事業						担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育て教育・文化のまち				節	2 生涯学習	
	基本施策	④特色ある講座・教室の企画・開催						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	13 町民教養講座開設事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円
	その他財源		110 千円			158 千円		140 千円
	一般財源		97 千円			100 千円		191 千円
4 事業の目的	対象	全町民						
	目的	町民に様々な学習の機会を提供をすることにより、より豊かな情操を持ち学習意欲を高め、社会への積極的な参加を促すとともに、自分の生涯学習を見つけることを目的として開講する。						
5 事業の概要	【事業内容】 11講座開催 ①わくわく体験教室(親子) (7回:19人) ⑥メッセージカードづくり (1回:6人) ②楽しむフラダンス (6回:5人) ⑦いつまでも若々しく！身体の中から健康に (1回:18人) ③シェイプアップ&疲労回復ストレッチ (6回:9人) ⑧健康的な身体づくり (1回:7人) ④手作り石けんをつくろう！ (5回:5人) ⑨ダンス講座 (3回:10人) ⑤初めてでも楽しい切り絵 (6回:5人) ⑩演劇講座 (3回:6人) ⑪植輪ストラップづくり (1回:7人)							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	長期講座受講者数				15 人	52 人	43 人	
	短期講座受講者数				42 人	17 人	54 人	
	クラブ主催 体験講座参加者数						69 人	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	町民一人ひとりが豊かな情操を持ち、自らの学習意欲を高め、生活文化の向上を図るとともに、新たなコミュニケーションを構築できる場の提供に努めた。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	町民のニーズに応える企画開催に努めた。講座修了後クラブ化し、生涯学習として継続していく体制になっている。						
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	全戸にチラシを配布し、郵便、FAX、インターネットでの受付を行っている。関係機関や多方面からの情報収集、多様な町民講師の確保に努め、講座の充実を図っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり							
	町民参加は公民館活動の要となっているもの。社会情勢の変化の中、講座開設には苦労があると思うが、町民参加の場を提供していくことは重要な事であるため、今後も継続していただきたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.18

令和4年度

事業名	長生大学運営事業						担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習	
	基本施策	④ 特色ある講座・教室の企画・開催						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	14 長生大学事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円
	その他財源		0 千円			0 千円		129 千円
	一般財源		106 千円			104 千円		64 千円
4 事業の目的	対象	65歳以上の町民						
	目的	時代に対応する心構えを養い、心身ともに健康で、生きがいづくりの一環として学習やクラブ活動を行うことを目的とする。						
5 事業の概要	【事業内容】 実施回数：28回(学習会6回×2 クラブ活動16回) <学習会> 活動内容：学習会(講話聴講)、クラブ活動 ①開講式・言葉の健康効果②お口のフレイル予防③やさしい 受講料：1,000円 人権講座④年を重ねていくとともに変化していく身体につ 送迎バス：1,000円 て⑤いばらきの昔を語ろう⑥茨城町の歴史を知る <クラブ活動> 大正琴クラブ 8回、民舞クラブ 8回							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和2年度	令和3年度	令和4年度
	長生大学受講生数					0 人	0 人	105 人
	クラブ活動者数					10 人	8 人	10 人
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	長生大学の受講者の意見等を反映し、参加者の希望に添う事業運営に努めている。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	高齢者の生きがいや健康づくりの支援、コミュニケーションの場を提供し、生涯を通じた学びの場となっている。学習会は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、2回に分け実施し、少人数で活動が可能なクラブ活動は継続して実施した。						
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	巡回バスや健康増進課と連携し健康に関する講座の開催等高齢者に対応した企画、運営を行っている。また、クラブ活動の開催に対応した企画、運営を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり							
	高齢者の認知症予防には、社会とつながることが必要なことである。企画・運営に工夫が見られたことが、受講生数につながっていると思う。今後も継続していただきたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.19

令和4年度

事業名	人づくり推進事業							担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち					節	2 生涯学習	
	基本施策		④ 特色ある講座・教室の企画・開催						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	7	事業	13	人づくり推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		0 千円			0 千円		522 千円	
4 事業の目的	対象	全町民							
	目的	一流の文化人による講演会を開催することにより、町民の学習活動を支援し、豊かな心と広い見識を持つ人づくりを目的とする。							
5 事業の概要	【人づくり文化講演会】 講師：森永 卓郎 氏 演題：人と地球を守る 自産自消・地産地消・国産国消 期日：令和5年2月11日（茨城町民の日） 会場：町立中央公民館大ホール								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度
	文化講演会聴講者数						0 人	0 人	300 人
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		町民の学習機会の充実を図り、学習意欲の向上を支援するために本事業の必要性は高い。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		豊かな心を育むとともに、広い見識、自己啓発の場としての効果をあげている。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		多くの町民の参加を促すため、広報誌。ホームページだけでなく、秘書広聴課と連携し、町民の日開催ポスターへ掲載し、広く周知を図っていく。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	予算上の問題もあり、講師の依頼には苦勞はあると思うが、著名人の講演を聞く機会を持つことは、有意義な時間であるので、今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.20

令和4年度

事業名	図書館運営事務						担当課	生涯学習課(図書館)	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習		
	基本施策		② 生涯学習関連施設の整備充実・利用促進						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	11	図書館運営事務費
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円		
	その他財源		0千円		0千円		0千円		
	一般財源		9,068千円		8,758千円		9,004千円		
4 事業の目的	対象	図書館利用者(町内及び広域)							
	目的	図書館は地域の情報発信拠点として、利用者に十分な資料の貸出や各種サービス及び情報提供することを目的としている。							
5 事業の概要	一般利用者及び施設等への資料貸出を行う。町民の学習、読書意欲に応えるため、幅広い資料・情報を収集し、利用者のニーズに速やかに対応できるようにする。また、幼児・児童・生徒に対し読書を習慣づける取り組みとして、総合学習の支援、施設見学などを積極的に受入れ、全年齢層の図書館利用促進に努める。さらには職場体験等を実施し、図書館を通して勤労観を養い、社会参加、地域交流、人づくり教育の場としての一役を担う。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	資料の貸出(相互貸借・団体貸出を除く)				95,798冊・点	99,923冊・点	100,621冊・点		
	団体貸出(出前サービス含む)				13,052冊	12,308冊	13,547冊		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	情報通信技術の進展により、多種多様な情報についての要望が多い中、リクエスト・レファレンス・ネットワーク等、それぞれにおいて需要に合った迅速な資料の提供を行っている。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	図書資料の貸出については、一般利用者のほか、保育園や幼稚園・小中学校など施設に対し図書の出前サービスで積極的な貸し出しを行った。また、来館者数では、60,574人で昨年度より7,439人の増となった。							
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	図書資料等については、利用者の要望等に応えながら、幅広い選書・選定による購入を行うとともに、あわせて相互貸借(県内図書館)を活用し、充実した資料の収集・提供を図っている。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	コロナ禍の課題が多い中でも、町民に図書館に来てもらおうとする努力が見られ、とても良いことだと思う。今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.21

令和4年度

事業名	読書推進活動事業						担当課	生涯学習課(図書館)			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習				
	基本施策	⑥ 読書活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	12	読書推進活動事業		
3 事業費 (決算額)	財源		令和2年度			令和3年度		令和4年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		368 千円			303 千円		268 千円			
4 事業の目的	対象	生後5～9か月の乳児及び保護者、小中学生									
	目的	ブックスタート事業や読み聞かせ事業等のほか、小学校への図書館司書派遣を行うことで、乳幼児をはじめ、児童・生徒が本に慣れ親しみやすい環境を整え、読書推進を図ることを目的とする。									
5 事業の概要	ブックスタート事業は、生後5～9か月児を対象に健康増進課で実施する離乳食教室及び育児相談時に、図書館職員とボランティアによる絵本の読み聞かせを行いながら絵本を配布する。また、ブックスタートのフォロー版として読み聞かせ事業『絵本となかよし』を行なっている。さらには町内の小学校へ図書館司書を派遣し、図書館資料お届けサービスや学校図書室の環境整備などの支援を行う。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	ブックスタート事業(乳児健康診査・ごっくん教室)						98人	97人	87人		
	小中学校への図書館司書派遣(司書派遣回数)						60回	51回	59回		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	少子化や核家族化が進み女性の社会進出も増え、地域との繋がりが希薄となり、子育ても孤立しがちな状況となっている中で、様々な角度からのボランティアと連携した子育て支援が求められている。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	コロナ感染拡大予防対策により、ブックスタートでは、本来目的とする絵本を通じて親子のふれあいの時間を持つ大切さを伝える「読み聞かせ」ができず、絵本の手渡しのみとなってしまった。図書館司書の派遣について学校休校を除き、定期的に学校図書室支援活動を行いました。司書派遣をしたことで児童たちの本への興味を持ってくれ、貸出しリクエストの数も増やす事ができた。また、各学校の図書室の整備を行う事ができた。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	ブックスタート事業では絵本セットを購入し、健康増進課と連携をとり事業を行った。コロナ感染拡大予防対策のため保護者とお子さんに読み聞かせをする事はできなかったが、図書館の利用案内をしながら絵本を手渡し、絵本の読み聞かせの大切さを伝えた。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	図書館員は、図書の貸し出し業務だけではない。図書室や各事業への派遣はとても有意義な事業といえる。本に触れあうことで、人を思いやる心を育むことにつながる大切な事業なので、今後も継続していただきたい。										

教育委員会における今後の対応について

学識経験を有する評価委員から今後の方針等、貴重なご意見をいただき、令和4年度の教育に関する事務事業の点検及び評価を実施いたしました。

点検及び評価の手法につきましては、事業の必要性、有効性及び効率性の観点から定量的指標を示すことにより、公平かつ客観的な評価の実施に努めました。そのうえで令和4年度における主要21事業についての点検及び評価を実施し、事業の成果や課題の検証、さらに今後の事業方針等を確認いたしました。

点検及び評価の結果、評価対象である21事業について概ね良好に執行されているとして、今後についても現行どおりの事業運営を継続すべきであるとの評価をいただきました。

各事業にてご意見やご指摘がございました課題や改善事項につきましては、個々の事業を再点検し、より事業の効果を高めるべく、教育行政の一層の推進に努めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行しましたが、安全面を考慮しながら、各種事業の実施方法等を工夫し教育活動の充実を図ってまいります。

次年度の点検及び評価につきましては、引き続き、点検及び評価の手法を改良し、実効性が高い評価の在り方を検討してまいります。

茨城町教育委員会は、評価委員からいただいた貴重なご意見をもとに、事業のさらなる改善を図り、町民に信頼され、支持される教育行政の運営に努めてまいります。

令和5年8月

茨城町教育委員会